

令和４年度 県立鬼怒商業高等学校自己評価表

目指す 学校像	○保護者や地域の期待と信頼に応え、地域のリーダーとなる「人財」を育成する学校				
	○生徒が自ら考え学ぶことをとおして、一人一人の資質・能力や個性を伸ばす学校				
	○安心・安全な学校				
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標		達成 状況
【学習指導】 休校中のオンライン学習の他、全職員が電子黒板やタブレットを使用する機会が増え、利用技術の向上も見られた。 コロナ禍にも関わらず、各学年で朝ドリルを計画・実施し基礎学力の向上に努めた。また、先生方が指導内容を工夫し、資格取得では例年どおりの結果を残したり、学びに向かう姿勢に改善が見られる生徒も増加した。 一方、新教育課程の初年度にあたるので、各教科の「指導と評価の一体化」を念頭に置いた観点別評価の適正な評価規準の作成及び「単元別指導と評価の計画」の導入とその確実な運用、コロナ禍においても着実に基礎学力や学びの姿勢の向上につながるような教員側の体制づくりとＩＣＴの更なる活用が課題である。		生徒の個人的資質の向上	○基本的生活習慣の確立及び豊かな情操とコミュニケーション能力の向上		
			○授業、部活動、学校行事等、学校教育活動全体を通じて達成感、生徒の自己肯定感の向上		
			○主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善による、新時代に求められる資質・能力の向上		
【進路指導】 企業の担当者や３年生からの説明や体験談を聞くことで、進路活動に前向きに取り組む生徒が増えた。学校や企業との連絡を密にし、素早い対応ができた。また、ハローワークからも適切な助言をもらうことも大いに役立った。会社見学は100％実施することができ、オープンキャンパスにもかなりの生徒が参加した。 一方で、基礎学力に関しては、例年と比較して大きな変化は見られなかった点、キャリアパスポートの活用においては、学年により差が出てしまった点、３年生以外はほとんど進路資料室が活用できていなかった点、教員間の情報共有が十分ではなかった点が課題である。		商業に関する専門的知識の育成	○教科内の連携による指導法の共有及び授業公開と意見交換による教員の授業改善		
			○タブレット端末や電子黒板等、ＩＣＴ機器を有効に活用した個別最適な学びと協働的な学びの実現		
			○主体的・協働的に課題の発見・解決に取り組む態度の育成		
【生徒指導】 指導が浸透してきたことから、生徒たちは落ち着いた学校生活を送ることができた。しかしながら、交通事故の発生、交通マナー、学校外のマナーといった校外の部分では状況は思わしくなかった。		保護者や地域の期待と信頼に応える学校づくり	○出前授業や学校Webページ等、教育活動の効果的な情報発信による募集人員の定数確保		
			○キャリアパスポートの活用及びキャリア教育の充実による進路実現100％		
			○ボランティア活動や課題研究等、地域社会と連携した体験的学習及び課題解決学習の充実		
【特別活動】 コロナ禍は続いているが、生徒実行委員を組織的に活動させることで、感染対策をしつつ体育的・文化的行事が無事実施できた。生徒間では、感染対策は日常化しつつある。ＩＣＴを活用した行事運営ができた。若手の活躍もあり、ライブ映像の配信が実施でき、各教室で視聴ができた。行事内容については、柔軟性をもって対応し、ほぼ予定通り実施できた。 今後の課題としては、部活動の加入率の低下(46％)に歯止めをかけるための工夫、コロナ禍で活動自体も縮小せざるを得ない部分が多かったが、生徒会活動がやや停滞したので行事運営等を通して改善していきたい。 また、リモートで実施した行事の実施方法のさらなる工夫及び通信環境改善の必要性も感じた。		生徒一人一人の資質・能力を伸ばすために、学校全体で取り組む組織づくり	○カリキュラム・マネジメントを推進し、計画的かつ組織的な教育活動の向上		
			○ＰＤＣＡサイクルを機能させ、学校評価と関連付けた教育内容の質の向上		
			○組織マネジメントの推進、教職員間の活発な意見交換による学校運営及び業務の改善		
		安心・安全な学校づくり	○生徒が安心して学習に取り組める環境づくり		
			○いじめ・体罰・災害等の防止及び迅速な対応		
			○ホームルーム、授業、二者面談及び三者面談等、生徒一人一人と向き合う丁寧な対応		
		教育活動の一層の充実に向けた業務の効率化	○各業務について、教育の目的達成に適切な方法となっているか不断の見直し		
			○校内における情報の共有化の推進		
			○地域の人的・物的資源を活用した教育活動の推進		
三つの方針			具体的目標	評価	次年度（学期）への主な課題
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)		○保護者や地域の期待と信頼に応え、地域のリーダーとなる「人財」を育成する学校 ○生徒が自ら考え学ぶことをとおして、一人一人の資質・能力や個性を伸ばす学校		
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)		○次の６項目を推進することにより、鬼怒商業高校生としての誇りをもちつつ、将来、地域のリーダーとして社会に貢献できる「人財」の育成に努める。 １ 生徒の個人的資質の向上に努める。 ２ 商業に関する専門的知識の育成に努める。 ３ 保護者や地域の期待と信頼に応える学校づくりに努める。 ４ 生徒一人一人の資質・能力を伸ばすために、学校全体で取り組む組織づくりに努める。 ５ 安心・安全な学校づくりに努める。 ６ 教育活動の一層の充実に向けて、業務の効率化を図る。		
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・) ポリシー		○世の中の動きや商業に興味があり、商業に関する学習をしたい生徒 ○簿記・情報処理などの資格や商業の学びを生かして進学・就職したい生徒 ○目標をもち、本校での学習をとおして自分の可能性を伸ばそうとする生徒 ○学校行事、生徒会活動、部活動などに積極的に取り組む意欲のある生徒		

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
教科	国語	継続的な理解力や表現力・基礎的な知識等の習得を重視した学習体制を敷く。	授業内容の理解度をノートや課題集の点検を用いて評価する。			
			ICTを活用し自己の学習を振り返るための助けとする。			
		場に応じた適切な表現の体験を通して、自己を見つめようとする意欲の向上を図る。	スピーチや意見を検討する機会を設けて、自分の考えを構築し、発表する機会を設ける。			
			俳句や短歌の創作等、詠む行為によって、自分の心と向き合う機会を設ける。			
		漢字検定を積極的に受検させ、将来の進路に活かす。	課外や課題プリント配布などにより、効率的な学習のサポートを行う。			
	地歴公民	主体的・対話的で深い学びを実現するための授業改善を行い、生徒の学習意欲を高める。	I C T機器の効果的な活用によって、生徒が取り組みやすい身近な話題を学習課題として設定する。			
			対話型の授業を展開し、グループワークを単元ごとに取り入れる。また、発問を工夫したり、パフォーマンス課題を設定したりするよう心がける。			
		社会の形成者となるための資質を養う。	様々な資料を利用し、外部機関との連携を図りながら、成年年齢の引き下げにより生じる様々な問題や責任について考えさせ、知識を習得すさせる。			
		基礎学力の定着を図る。	授業内容の確認プリントやワークシートのチェックを通して、個々の生徒の能力に応じた、きめ細かい指導を行う。			
	数学	生徒の学習意欲・基礎学力を向上させる。	基礎基本的な学習内容を理解できるように問題演習の時間を十分に確保する。解説の際、電子黒板やタブレットを活用する。			
			授業中には発問や机間指導を適宜に行い、苦手な生徒にはその都度個別に指導する。ワーク等の提出状況から生徒の理解度を確認する。			
		主体的・対話的で深い学びを意識した授業を行い、生徒の思考力・判断力・表現力を向上させる。	問題演習の際、グループで対話活動をさせる。また、考えを黒板に記述させ発表させる。			
	理科	基礎的な学力の定着を図る。	生徒と教員及び生徒間のコミュニケーションを重視した授業を通して、一般常識にもつながる基礎的知識をしっかりと身につけさせる。			
		日常生活にあふれる科学的事象に対する興味・関心を高める。	電子黒板やタブレット等のI C T環境を有効に活用しながら、身近な物質や現象を取りあげることで、主体的な学びを促し、科学全般に対して興味・関心をもたせる授業展開に努める。			
		物理実験室・化学実験室の整備と他教科も含めた授業での有効活用を高める。	計画的に実験室の備品等の整備を進め、実験室等の活用を活発化して、実験・実習・モニター視聴等の様々な形態の授業を取り入れる。他教科にも積極的に開放し、学校全体として有効利用を促す。			

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
教科	体育	体力の向上と各種運動技能の習得に努める。	体づくり運動の充実を図り、体力テストA及びBの割合を50%を目指す。			
		できる喜びを実感できる授業実践に努める。	卒業課題の合格率75%以上を目指す。			
		体育的学校行事とのタイアップをはかる授業を展開する。	授業においてクラスマッチ種目のルール等を取り扱い、学校行事の成功と意欲の向上を図る。			
		よりよい体育授業の実践を図る。	担当者全員による学期1回以上の実技研修会を実施する。			
	保健	生涯にわたって必要な知識・技能の習得を図る。	ICTを活用して話題のニュースを取り上げ、生徒の実生活に密着するよう、各場面での思考・判断能力を養う授業展開を図る。			
	英語	基礎学力の向上に努める。	I C T機器を効果的に用いて、生徒の活動時間を増やし、知識の定着を図り、基礎学力の向上を目指す。			
			単元ごとに課題をおこない、学習ノートの提出により、きめ細かく、継続的に理解不足の生徒に対して指導する。			
		資格取得のための指導に努める。	全商英検3級合格60%を目標に、上位の級の合格者も出るように対策課外等を実施する。特に情報ビジネス科は主体的な習慣課題の取り組みの定着を図る。			
		実践的コミュニケーション能力の向上に努める。	A L Tとのチームティーチングを存分に活用し、主体的にコミュニケーションをすることで、リスニング・スピーキング能力を高める。			
			ペアワーク・グループワークを積極的に取り入れ、他者との対話的なやりとりを通じて自らの考えを深めながら、コミュニケーションを積極的にしようとする態度を育成する。			
	家庭	主体的・対話的で深い学びを実現するために、基礎的・基本的な知識と技術を習得する	I C T機器を効果的に活用し、具体的でわかりやすい授業を展開する。			
			プリント・学習ノートの活用や実技テストを実施して、基礎的な知識・技能を定着させる。			
			実験・実習を通して、コミュニケーション能力を養い、協調性や自主・自立の精神を育成する。			
		家庭生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。	ホームプロジェクト活動を通して、家庭生活の質を向上させる。			
	商業	学力・指導力の向上を図る。	生徒一人一人の実態を把握し、「わかる」「できる」「楽しい」授業を目指し、知識の定着を図る。また、探究的活動を通してビジネスに関する発展的学習を行い知識を活用する力の育成に努める。			
			I C T機器を利用した授業の構築や授業研究を通して、授業改善を行い、主体的・対話的な深い学びの実現に向けた指導力向上に努める。			
		商業教育の広報活動に努める。	地域と連携した商業教育の推進や商業教育の理解をさらに深めるために、体験入学や出前授業の内容を工夫して実施する。			
		ビジネスにおける実践力の育成を図る。	すべての商業科目の中でビジネスマナー及びコミュニケーション能力を身につける工夫をし、育成する。			

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
校務分掌	教務	教員のＩＣＴ機器活用技術向上を図り、ＧＩＧＡハイスクール構想を念頭に置いた授業中のタブレット使用頻度の増加。	全教職員が授業をととして生徒のタブレット使用を積極的に高める。			
			ＩＣＴ機器利用技術およびタブレット活用の情報を職員で共有し、利用技術の向上と活用頻度を高める。			
		「指導と評価の一体化」を念頭に置いた観点別評価の適正な評価規準の作成及び「単元別指導と評価の計画」の導入とその確実な運用。	「単元別指導と評価の計画」による観点別評価を忠実に実行と次年度に向けた改善をおこなう。			
		基礎学力の低い生徒への指導を充実させ、学業不振の転退学者の減少に努める。	「基礎力診断テスト」を有効活用し、基礎学力の向上を目指す。また、各学年においては積極的に朝ドリル等の機会を設け、あらゆる場面で学習習慣が定着できるよう促し、学業不振による転退学者の減少に努める。			
		内規の検討を行う。	本校の現状をふまえ、内規の問題点を話し合い、必要に応じて見直す。			
		授業時間の確保に努める。	コロナ禍により授業時間の確保が困難になる可能性も踏まえて、学校行事等の内容を吟味し、必要な時期に必要な授業時間が十分確保できるよう努める。			
		情報の保護・管理に努める。	手引きに沿った個人情報の保護を適正に管理する。			
		H P の適正な運営と教育活動の公表に努める。	ガイドラインの作成とそれに沿った活動を活性化させ、迅速な情報の公開を心がけ、本校教育活動のＰＲをし、生徒募集につなげる。			
	生徒指導	学校全体で挨拶を活性化させる。	登校時の昇降口及び廊下等での挨拶を教職員全体で積極的に促す。			
		服装・頭髪等について校則を守らせる。	生徒の納得を得る指導をしながら登校指導、授業時、休み時間等において職員間及び学年間の差がない指導をし、日頃から就職試験等に対応できる身だしなみを定着させる。			
		ネットモラルを定着させる。	スマホ安全教室、道徳の時間、ホームルーム等を通して、ＳＮＳの使い方、インターネットに潜む危険を指導し、ネット上のトラブルを未然に防ぐ。			
		交通ルールを守らせ、事故を未然に防ぐ。	自転車点検、交通安全講話、バイク実技講習会等を実施すると共に、校外立哨指導やＨＲ等で日頃から交通安全に関する注意喚起をし、交通事故を軽減する。			
		問題行動を未然に防ぐ。	立哨指導や昼休みの校内巡回を行う。服装検査や様々な集会等で、起こりうる問題行動等について注意を促す。また、問題行動が起こってしまった場合には迅速に対応する。			
		教育相談活動を充実させる。	年３回の担任面談（そのうち２回は保護者面談）に加えて、スクールカウンセラーによる生徒、教員、保護者へのカウンセリングの場を用意し、個で悩みを抱えこまない環境を作る。			
	特別活動	生徒会・ＨＲ活動の活性化につとめる。	生徒会役員を中心に、生徒会組織を生かした学校行事運営を図る。			
		部活動加入率60％を目標とし、年間を通してその維持に努める。	部活動所属生徒の活躍を校内や地域社会に知らせることで、各部活動の入部者を増やし、意欲的な取り組みを促す。			
			部活動の生徒を中心に、挨拶等のマナーアップ、学校周辺の美化活動等に取り組む。			
		体育的行事、文化祭等の学校行事に対し、生徒の主体的参加を促す。	各ホームルーム役員および委員会の生徒を中心とした活動を活性化させることで、学校行事の充実を図り、体育祭・文化祭の成功を目指す。			
		生徒会活動を通してキャリアパスポートを推進する。	多くの行事を通して、自ら計画・振り返りをしながら主体的な活動ができる力を育む。			

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
校務分掌	進路指導	進路について理解を深めさせ、個々の能力・適性に合った進路決定をさせる。	進路ガイダンスの時期・内容を検討し、学年との連携を図りながら実施に努める。			
			上級学校のオープンキャンパスや企業見学会への参加を促し、進路選択のミスマッチを防ぐように努める。			
			「進路の手引き」を発行し、進路希望の実現に活用させる。			
		進路の情報提供を充実させる。	企業、ハローワーク、上級学校との連絡を密にし、生徒に的確な情報を提供する。			
		進路資料室の効果的活用を目指す。	生徒・職員・保護者への情報提供の仕方を工夫し、閲覧資料の整理に努める。			
	環境整備	清潔な環境を目指す姿勢を育てる。	環境美化活動を通して、生徒の美化意識の向上に努める。			
			効率よく環境整備をするためのアイデアを出し合い、創意工夫の能力の育成に努める。			
			清掃道具を速やかに補充し、生徒自らが意欲的に校内美化に取り組む環境を整える。			
		環境美化を主体的に実践しようという意欲を育てる。	より清潔できれいな学校にするための中・長期的な計画を、生徒とともに模索する。コロナ禍でも安全に学校生活が送れるよう環境整備活動に努める。			
	保健厚生	生徒の心身の健康増進を図る。	新型コロナウイルス感染症予防対策の徹底を図る。			
			諸検診の効果的な実施に努める。保健室の効果的な運営に努める。			
			専門家による性教育を実施する。			
		学校生活の安全教育に努める。	防火・防災避難訓練会を実施する。危機管理マニュアルの共通理解を図る。			
		学習環境を整備する。	エアコン、ストーブの安全管理および生徒の健康管理に努める。			
			水質検査および室内環境検査等を実施する。			

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
校務分掌	図書	図書室・第2図書室の環境を整備し、学習活動及び各種活動を支援し、情報収集・選択・活用能力を育成する。	蔵書の配置・装飾の工夫や、資料の整理・迅速な手続き処理などにより図書室を利用しやすい環境に努める。			
		読書習慣の推進を図り、主体的・意欲的な学習活動や読書活動を充実するよう努める。	1年生全員に図書室利用のオリエンテーションを実施する。アンケートにより読書への関心等の状況を把握する。			
			新刊本の表紙をカラーコピーし、可能な限り（60%以上）資料の提供を行う。情報機器の利用を工夫し放課後等の活動に活用する。			
			リクエストボックスやアンケートをととして購入希望図書を募り、希望の60%以上を購入する。			
			生徒発行の「図書室だより」を年間3回以上発行して読書のよさを周知し、読書に対する関心を高める。さらに、図書館関係行事の広報に努める。			
		図書委員の自主的・主体的な活動が活発になるよう促す。	図書室内の装飾・蔵書点検・環境整備・リクエストボックスの回収等における図書委員の活動を通じて、主体的な活動を推進する。			
	渉外	PTA総会・各種行事、会合への保護者の参加率を高め、学校・家庭との連携を密にする。	P T A総会をはじめ各行事への参加率を高めるための工夫・改善をする。			
			学校の教育活動を積極的に広報するため、メール配信やPTA広報紙「鬼怒」の充実を図り、保護者の学校理解を深める。			
			会員相互の親睦をはかるため、保護者対象の研修旅行等を実施する。			
			高P連やさわやかマナーアップ運動等の学校内外への保護者の積極的な参加を促し、得た情報を共有する。			
			P T A支部研修会を実施し、保護者同士・職員の情報交換を行い、協力体制を確立する。			
		50周年記念事業に向けて、同窓会の組織・強化に努める。	同窓会役員との連絡を密にして、組織の活性化、強化に努め、記念事業の準備を進める。			
		スクールバスの安心・安全な運行を継続する。	スクールバス運行委員会において、問題点を把握し、安心安全に通学できるようにする。			

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価		次年度（学期）への主な課題
学 年	一 学 年	基本的生活習慣を確立させる。	日常生活における挨拶の励行、制服の正しい着装、身の回りの整理整頓を促す。			
		時間厳守の意識を高める。	時間に遅れず行動することを習慣づけ、集団生活における時間厳守の重要性を理解させる。			
		規範意識を高める。	本校のルールを理解させ、SNSなど情報モラルの指導を徹底し、社会規範意識の向上に努める。			
		授業や学校行事の大切さを理解させる。	授業や学校行事へ意欲的に取り組めるよう、自ら考え行動できる主体性を育てる。			
		進路についての意識を高めさせる。	LHRや進路行事を通して、必要な情報を提示し、将来を見据えた目標を設定させる。			
	二 学 年	集団生活におけるマナーを身に付け、コミュニケーション能力を高める。	挨拶を習慣化し、相手の気持ちを考えて行動することを、日常的に考えさせる。また、様々な場面で、生徒同士がコミュニケーションをとる機会を設ける。			
		基本的生活習慣を確立する。	時間や約束を守るという、社会人としての最低限度の必須項目の実践を通して、信頼される人物を育成する。			
		学校行事に主体的に参加し、仲間意識やリーダー性を身に付ける。	自己肯定感を高揚させ、学校行事等において中心となり活動させる。			
		資格取得に向けて意欲的な学習をする。	家庭学習を習慣化させ、専門科目の知識をさらに身に付け、多くの資格取得が出来るような指導を行う。			
		適性を把握し、その適性に合った進路を実現できるように計画的な準備を進める。	自分の適性を学力診断を通して理解し、その上で卒業後の進路が自己実現できるよう、適切な進路ガイダンスや、進路指導計画を実践する。また、個別面談を適宜実施しつつ、生徒の個性を伸ばし、進路活動が円滑に進められるよう指導する。			
	三 学 年	生徒の進路実現に向けて、支援を行う。	生徒が進路を適切に決定できるよう、適切な進路行事を計画・立案し、学年職員全員で支援する。			
			就職においては、必要に応じて保護者を含めた面談を必要回数実施し、離職率の低下につながる指導を行う。進学者においては、奨学金についての案内がきちんと保護者へ届くように教員の連携を図る。			
		社会人となるために必要な、知識やマナーを身に付けさせる。	各教科と連携を図り、一般常識や、最低限の知識の定着に努める。			
			商業科目の知識を活かし、社会で役立つ I T パスポートなどの国家資格や、全商簿記取得に積極的に取り組ませる工夫を行う。			
			H R や集会を通して、社会人として必要な礼儀作法や言葉遣いなどのマナーについて、きめ細かい指導を行う。また、他者を思いやり協調性を育む指導を日常生活を通して行う。			

※ 評価基準 A：目標以上に達成できた B：目標を達成できた C：目標を下回った D：目標を大きく下回った